

## 協進レター61号

平成 23 年 1 月 25 日

新年あけましておめでとうございます。

どうも地球温暖化の冬に体が馴染んでしまっているせいか、寒さが厳しく感じる今日この頃です。そのような中、早朝より深夜までのお仕事ご苦労様です。ありがとうございます。インフルエンザが流行っているという、ニュースも流れています。どうか感染予防には、最善を尽くして、元気にお過ごしただけだと祈念しています。

2010 年は、「腹を空かした虎が暴れまわった年」のような比喻をさせてもらいましたが、年が改まった 2011 年は、「両足が地から離れて飛び回ってしまう兎ではなく、軸足はいつも地につけて、大きく体を伸ばすように歩む卵」をイメージしていきます。本年もよろしく願いいたします。

さて、研修会の時にお話させていただいた、松下幸之助翁の話を少し続けさせて下さい。

自分は 1 年にどれだけ伸びているか、技術の上、あるいは社会に対するものの考え方の上に、どれだけ成長があったか、その成長の度合いを測る機械があればこれは簡単に分かります。しかし、一人ひとりの活動能力という

か、知的才覚というか、そういう総合の力が伸びているかどうかを測る機械はありません。けれども、私は 5% なり 10% なり、あるいは 15% 伸びたと、自分で言えるようでないといけません。やはり一人ひとりが、自分の力でどれだけの事をしているかという事を反省してみる事が大切です。一人ひとりの力が伸びずに社会全体の力が伸びる事はないと思うのです。

「一人ひとりの個が伸びなくて、全体が伸びるはずがないという事なのかな？」と単純に理解するのですが、私自身伸びていると言えるのかな？自分が伸びていないのに、回りに「変われ、伸びろ」って言ってないかなと、反省をしてみました。

子供だと、学校や家庭で成長の度合いが目に見えやすいのですが、私たちの成長ってなかなか目に見えにくいと思いませんか。お腹回りの成長、額の面積の成長なら、すぐ「伸びた」と、言えるのですが、自分が「5% なり、10% なり、あるいは 15% 伸びた」と、自分で胸を張って言えますか？皆さんはどうでしょう。

私達の日常の 3 分の 1 以上は、会社という所で仕事という営みをしています。そのトップが自分の成長を確認できずに、社員にあれこれ言っているのではないかと、少々自虐的になりました。

そこで恒例の、年頭に当たって私の 10 ヶ条の誓いを、2011 年は 10 ヶ条

の成長評価テーマにして、一年たった年末に伸びがあったのかを、自己評価をしてみようと思立ちました。

① どんな時でも、誰にでも、明るく元気にさわやかに、語先後礼の挨拶をします。

私、その時の気分が表情に出るタイプなので難しいのですが、努力します。

② 対面で人と接する時は、笑顔で接する事を心がけます。自分の表情が会社の看板で、家族の顔、家系の顔と意識します。

③ 丁寧で前向きな言葉使いに注意を払います。

子供のころから、「口に気をつけなさい！」と、母親から指摘されています。知らず知らずに、思いとは別に、人を傷つけてしまっている事がよくあると自認しています。

④ 正しい姿勢を意識します。正しい姿勢こそ、気持ちを前向きにするし、行動を素早くさせると言われます。

⑤ 都度、整理整頓。置き場所は決める。使ったら戻す。不要な事、物は捨てる。

⑥ 何をすべきか、発心、決心。決心したらやり遂げるまでやる。結果を出すまでやり続ける。

発心はたくさんあるのですが、決心してやり遂げるまでが弱いと、自分は感じています。

⑦ 時間を大切に、常に何でもいいから、有意義な事をする。

例えば、移動に自家用車は出来るだけ利用せず、電車・バス・タクシ

ー・徒歩等で移動し、本を読むとか、日常の運動不足の解消に努めます。

⑧ 極端に偏らない中庸な気持ち。どんなに不愉快な中傷にも感情的に反論せず、ジッ！と我慢をします。

⑨ 最善をつくしていても起きてしまう、よくあるトラブルや避けようがないアクシデントに気持ちを乱さない。

結構気が小さく、些細な事でもくよくよするタイプです。小事に囚われて大事を逃さないようにします。

⑩ 会社人・家庭人・社会人としてのバランス感覚を持ちます。

どこに比重を置くかは、発生している事象毎に重きを置かなければならないケースb yケースだと思えます。やはり極端に偏らない事が寛容だと思えます。

皆さん個々に、様々なご意見ご感想があろうかと思えます。私は、この一年こんなテーマを持って、5%成長したと言えるか、10%成長したと言えるか、15%成長したと言えるか、年末に自己評価をしてみようと計画しました。自分の成長を自分で胸を張って言えていれば、仕事も家庭も安泰だと思っています。

最後まで読んで下さいまして、ありがとうございます。

終わりに、先日ある会議の終了後、「いつも読んでいます。参考にしています。」と言って下さった、同業者のNさん、ありがとうございます。ビックリしました。感激です。